

1 パーソントリップ調査の概要

1-1 パーソントリップ調査とは

パーソントリップ調査とは、交通の主体である「人（パーソ）の動き（トリップ）」を把握し、それをもとに圏域の骨格的な交通網整備の指針となる総合交通体系マスタープランを策定するものである。

また、パーソントリップ調査では、圏域の「人の動き」を把握するために、調査の対象となった人に1日の動きを記入してもらったアンケート調査を実施した。

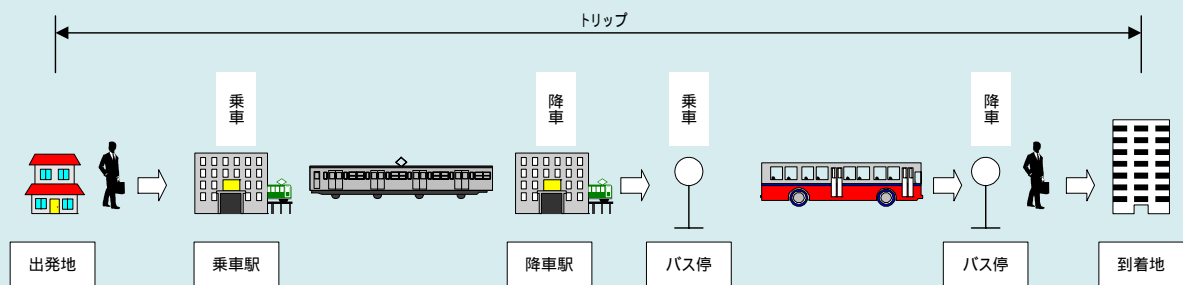
旭川都市圏パーソントリップ調査では、およそ15世帯に1世帯の割合で、満5歳以上の居住者の方およそ2万6千人分の有効データを得た。

パーソントリップ調査で把握する、「人の動き（トリップ）」とは
どのような人（性別、年齢、職業等）が、
どんな目的（通勤・通学、業務、私用等）で、
どこからどこへ、
どのような交通手段（徒歩・二輪、自動車、バス、鉄道）を使って、
何時ごろ動いた等
である。

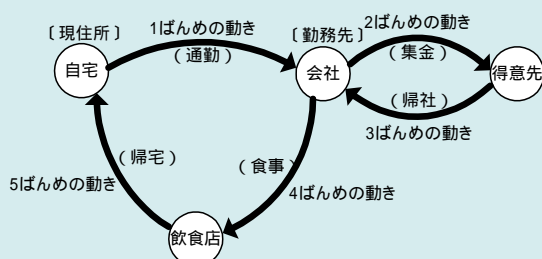
トリップとは

人はいくつかの交通手段を用いて移動を行っている。例えば、下図のように通勤の場合、自宅から鉄道駅まで徒歩で行き、鉄道に乗り継ぎ、さらに駅からバスに乗り継いだ上で勤務先に到着するという、複数の手段の組み合わせで一つの目的が達成するための全行程を目的トリップ（リンクトリップ）といい、その間の各交通手段を手段トリップ（アンリンクトリップ）と呼ぶ。

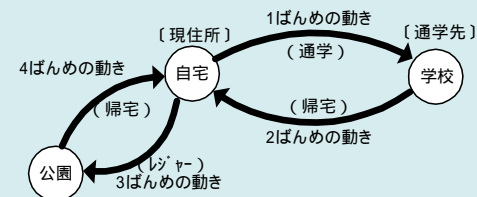
【トリップの例】



【例：サラリーマンの1日の動き 5トリップ】



【例：子供の1日の動き 4トリップ】



1-2 調査の目的と背景

旭川都市圏（旭川市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、東川町）では、昭和57～59年度にパーソントリップ調査（以下第1回PT調査とする）を実施してから20年が経過し、その間市街地の拡大に伴う郊外部への人口の移動、商業業務施設をはじめとする都市機能の拡散等により、交通の発生源・集中先も変化している状況にある。

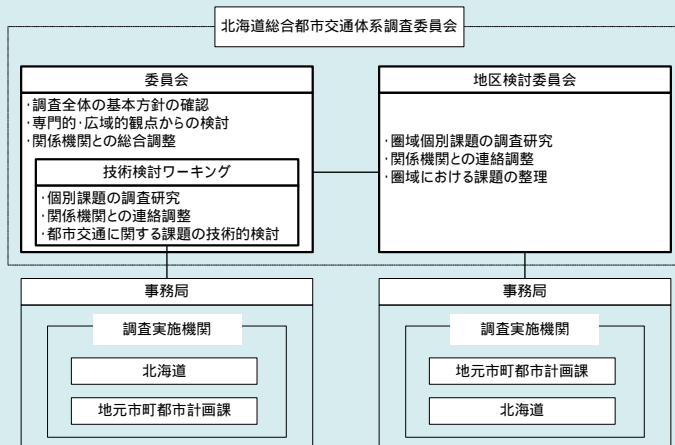
さらに、旭川都市圏の広域幹線道路となる北海道縦貫自動車道の士別剣淵ICまでの開通、「旭川・紋別自動車道」の整備推進、地域高規格道路「旭川東神楽道路」の調査区間指定、旭川空港の拡張整備、旭川駅周辺開発整備計画「北彩都あさひかわ」と鉄道高架事業の着手等、交通を取り巻く情勢も大きく変化していることから、今後の社会経済状況を勘案しつつ、旭川都市圏の新しい総合都市交通体系を策定することが必要となった。

そのため平成14～16年の3カ年にわたり西暦2025年（平成37年）を目標年次とする旭川都市圏の交通体系マスタープランを策定する。

【調査体制】

1-3 調査体制

本調査は、調査内容が多岐にわたっており、調査の実施にあたっては、学識経験者をはじめ関係機関の協力を得て調査を円滑に進めていく必要があり、右図に示す体制で実施した。



1-4 年度別調査内容

本調査は、調査の企画準備から始まり、最終的なマスタープランの立案まで以下に示す内容構成で実施した。

【調査全体フロー】

